

あれこれ 町政を問う

Q. これからの小・中学校の防災教育は

A. 地域学習という視点で教育できる支援をします



藤岡 緑 議員

問 小・中学生の防災教育を実践的活動から、視点を広げる地域防災学習に繋げていく考えは

答

教育長

学校での防災教育は、総合的な学習時間などを活用した安全教育の中で取り組んでいます。

小・中学生がさらに防災意識を高め防災力をつけるには、学校として地域の防災活動の参加を促し、授業で行なう防災教育では不十分な実践的な防災学習をしてもらう必要があると考えます。

例えば、地域自主防災組織の方や防災士などと地域巡回をしたり、身近な防災施設や避難場所の確認など実践的な活動を通して地域学習をしていく事も大切です。

今後、子どもたちが自分の視点や感性で防災学習ができるように学校も支援を行なっていきたいと考えます。

問 コミュニティバス
の更なる利便性拡大は

バス利用者（特に高齢者）から年末年始の特に買い物量の多くなる時期に特別休暇期間ということで、バスが運休してしまいうのは困るという声があるが、町の考えは。

答 運行上問題なければ前向きに考えます
町長

年末年始のエミフル周辺の交通渋滞の状況や現在のダイヤが予定通り確保できるか充分検討します。また利用されている方々のご意見も調査してその結果を踏まえ、伊予鉄道とフジと協議をして特に問題がなければ、その方向で考えます。



もっと便利な町民の足に！

問 飼い犬登録の鑑札
について

答 他の市町と相談して親しみやすいものにしよう検討します
町民課長

鑑札のデザインは市町村で2007年の法改正によりオリジナル化できているが、本町の取組みは、

犬の飼い主は、犬の登録や狂犬病の予防注射が義務づけられ、交付された犬の鑑札や注射済票を飼い犬に付けるようになっていきます。

オリジナル化といっても県内すべての市町が独自のデザインにすると動物病院の負担も大きく、コスト面からも十九市町統一したものを使用しています。

今後は他市町と相談し、親しみやすく飼い主に好んで付けてもらえるデザインにするように検討します。